

診療所長 今月の二句

平成二十七年十二月

寒風に 微動だにせぬ 宵の月

夜は、本来の十二月の寒さになりました。空を見上げると、濃紺のとぼりの中に、凜とした下弦の月。冷たい風で、身は震えているのに、月は、微動だにしません。

暮れなずむ 師走の街に 人は去り

日が暮れるのが、めっぽう早い、今日この頃。恋人が、師走の街の雑踏の中に、消えていく情景は、映画の話。実は、在る会合の後、友人から、飲みに行こうと誘われましたが、風邪気味で、誘いを断った後に、浮かんだ一句です。